

基本目標1・2の数値目標・KPIについて

- 観光資源がたくさんあるので、場合によっては、各集客施設の集客目標からもアプローチして、もう少し野心的な目標設定にしてもいいのかなという印象は受ける。（内田座長）
- 目標値が基準値に対してどういう論拠があるのかということところが、細かい数値を刻んでいくと、よりその論拠を求められる可能性があるので、もう少し丸めた比較的切りのいい数値で、やや高めに目標設定をしてもいい。（内田座長）
- 清洲城の入場者数は、これから訪日客の誘客を強化するのであれば、国の方針である1.5倍を参考に、目標値は少し高くてもいいのではという印象を受ける。清洲城に関連するアプリやゲーム開発といったソフトも含めて、誘客の取組もあっていい。（内田座長）
- 観光面での清須ブランドというものが認知されていけば、当然、若い居住人口の増加にも、交流人口の増加にもつながっていくと思うので、指標設定のウエイト付けとして、観光面を伸ばしていけば、全体の数値目標・KPIの達成にも貢献できるという項目は、目標を少し高めにしてもいい。（内田座長）
- いろいろな施策がある中で優先的にやるのは何なのか。そういった考え方をきちんと示さないと結局あれもこれもになって、ややもすると共倒れになる危険性があるので、優先順位付けをきちんと付けたほうがいい。（山本委員）
- KPIはこれから4年間追いかけていく指標なので、なぜこの指標になったのか、ストレッチされた目標なのか、それとも順当な目標なのか等について、きちんと清須市民一人ひとりの腹に落ちるような説明があったほうがよい。（山本委員）
- 全般的に控えめな数値、確実に実行できるような数値だと感じた。（富田委員）
- 「シビックプライド」、「インバウンド」という言葉は、おそらく高齢者の方等には分かりにくいと思うので、注書きをした方がよい。（富田委員）
- 妊娠することの大切さとか、意味みたいなことを教えるような施策をお願いしたい。育児環境の整備で行う情報発信は、「妊娠期から子育て期までの」という部分を取り除いて、「妊娠・子育てに関する行政サービスの」というふうにしてもいい。（富田委員）
- 基本目標2の施策②の「子育て支援サービスの充実」で、放課後児童クラブの利用者数をKPIとして設定しているが、親御さんが昼間にいない小学生を増やすというのは、KPI以前に総合戦略に位置付けることがどうなのかなという印象を持つ。（富田委員）
- 例えば清洲城の利用は、いろいろなところで工夫すれば動員等で増えるのだと思うが、出生や子育て支援サービスは、利用者数の目標値はいいとして、受皿やその中味はどうなのかということところが、頭が行ってしまうので、これらの指標の数値が妥当なのかどうか分かりにくい。（北山委員）
- 全体で感じるのは、比較的到達しやすい目標と難しそうな目標とメリハリを付けないといけない。例えば清洲城の入場者は、こんな数字では意気込みを感じられない。（舟橋委員）
- 総合戦略の到達目標は人口増ですから、若者をとにかく増やさなければならない。（舟橋委員）
- 観光アクセスの充実にある、バス停「清洲城」の乗降者数の目標は、270人では全然話にならない。外国人の清洲城への入場者数も3,500人では少ない。（舟橋委員）
- 年間出生数については、あくまでも統計上の数値なので、これでよいが、パパママ教室の参加者数300人という目標については、もう少し増やさないと啓発が進まないのではないかと。（舟橋委員）
- 施策をまとめるときに、数字は確かに目標ではあるが、目的はこういうところにあり、事業をする。それを表すために数値化をするとこうなるという順番を間違わないように表現することが非常に重要。（山田委員）
- 観光客を呼ぼうという場合、この目標を達成するためにいろいろな施策を連携してやれるように、情報の共有化が重要。部署単位の報告のためにやっているということになると、非常にもったいないので、市全体で認識できる工夫も必要。（山田委員）
- 根本はまず清須に住んでおられる方のシビックプライドをどう実現していくかということで、外の力をどう使っていくか。この辺りは間違えないようにやっていく必要がある。（山田委員）
- 清洲城入場者数の目標10万人という数字の背景や基になる考えをもう少し聞きたい。（平野委員）
- 年間出生数700人の現状維持を目標にするとのことだが、ただ単に過去10年の平均値を取ること自体が妥当なのかどうか。そしてその数値はハードルの高いものなのかどうか気になる。（平野委員）

基本目標3～4の基本目標・KPI及び進行管理について

- シニア層、高齢者に関しては、清須学への参加者などが設定されているが、高齢者がそういう社会参加をしつつ、若い世代と交流をするような場面での目標設定があるといい。（内田座長）
- 「あしがるバス」「あしがるサイクル」が分かれているところは若干違和感がある。観光アクセスにも当然重要視される部分があるので、転記や併記についても、今後検討してほしい。（内田座長）
- 「あしがるバス」の認知度については、確かに基準値の89%が高いということもあるが、目標値の1ポイント引上げというのは、印象としてははかかなり低く感じる。目標値100%というのは、現実的に難しいので、99%や95%にしてもいい。（内田座長）
- マイスター認定を受けていなくても、小中学校で社会科授業をしているようなシニア層もいると思うので、（マイスター認定者数ではなく）それをKPIとして設定して、もう少し大きめの数字を出してもよいのではないかと。（内田座長）
- 「あしがるバス」の認知度が高くても利用されていないというのは、不便ということもあるかもしれないが、クルマ社会で、多くのシニア層の方も、軽自動車とかマイカーで移動するケースが多いからだと思う。やはりこの辺も、訪日客は、公共交通機関を中心に利用されるので、ホームページやアプリで対応していけば、少なくとも清洲城を巡るオレンジルートに関しては、もう少し高めの目標設定をできる可能性があるし、朝日遺跡等の情報発信との連携ということも強化されたい。（内田座長）
- 総合戦略の目的は定量的には人口増であり、定性的には清須が好きだと皆さんに思っただことだと考えている。その意味では、基本目標①についてはどちらかというところストレッチをして、②・③・④は手堅くいくと、最終的な目標に近づいていくと思う。（山本委員）
- 同じ「あしがる」という名前の付いた「あしがるサイクル」と「あしがるバス」の括りが分かれている点に違和感がある。市民の方が使う公共交通であることは確かだが、同時に観光客にも使っただく観点で、基本目標①の中でバス停「清洲城」の乗降者数とされているが、こちらを清洲城を通るオレンジルートの「あしがるバス」1便当たりの利用者数の目標値とすり合わせてもいい。（山本委員）
- 「高齢者の社会参加の促進」での「清須学歴史マイスターの認定数」は、KPIとして、こちらがいいのか、清須学講座の受講者がいいのか悩むところ。（富田委員）
- 新川高校では、昨年から高齢者との交流授業に取り組んでいるが、本当に良い。その際に役所関係の方にもお世話になったが、やはり受け皿があると、学校としてはすごくやりやすい。その点で、清須学講座を開いてマイスターを認定する時に、それをどういうふうに学校などが利用していけるかというようなところを、分かりやすくやっていただきたい。（北山委員）
- 朝日遺跡の認知度のパーセンテージも富田委員さんのところを出されていて、こんなに少ないのかないつも思っており、やはり清須市内では絶対に100%にしなくてはいけないと思っている。あしがるバスの認知度も高く目標を立てるべき。（北山委員）
- 高齢者が増えているのに、シルバー人材センターの人員が減っているのは少し気になる。（舟橋委員）
- 市民協働の推進について、拠点づくりがとても大事だということは、ワーキンググループで、すごく意見が出たところ。そういう意味から、もう少し前向きな書き方をしておいたほうがいい。（舟橋委員）
- 官学連携のことについて、「らく楽運動教室」のことしか書かれていないので、例えば認知予防の取り組みや、市民公開講座を現状の年2～3回から10倍に増やす等を追加してほしい。（舟橋委員）
- シニア人材は、ビジネスマンとしてこれだけ日本を支えてきて、知的資産や成熟した社会を作っていただいた。その力を今のビジネスの中に活かしてもらおうということで、今マッチングを行っている。全国から我々のところに手弁当でお見えになる方もおられる。必ずこの地域にもおられると思うので、そういった方々の力をどう地域へ還元いただくかということに、我々の知恵と工夫が必要。（山田委員）
- 数値が必要なものと、それだけではなくて、それ以外のものもあるということ忘れず、ポイントを絞りながら、優先順位と重さを見てやっていく必要がある。（山田委員）
- 「要介護認定率の抑制」は、現場で数字を合わせるために、必要とされる人を認定しないということが起きるリスクがあるのではないかと。（山田委員）
- シルバー人材センターの会員数の456人の目標値の根拠、雨水ポンプ場の長寿命化が具体的にどういう施策を想定されているのかということ、それから推進会議の活用についての具体的なスケジュール感などが知りたい。（平野委員）